

令和7年度市民事業現場訪問報告書

1 日時 令和7年9月13日(土) 9時20分～17時15分

2 目的 水源環境保全・再生市民事業支援補助金を受け、活動している団体の活動現場を訪問し、意見を聞くことにより、活動の実態を把握する。

3 訪問先 次の2団体

団体名等	補助金実績等
湯河原森のなかも 代表 山本 拓司 視察場所：※（湯河原町鍛冶屋） ※雨天のため、近くの幕山公園にて、活動内容の聞き取り等を行った。	スキルアップ部門 間伐材の利活用促進事業（R7）申請額46.2万円 資機材の購入（R7）申請額24.4万円 上記以外の主な実績 森林の保全・再生事業（H26～H30）
特定非営利活動法人 仂 理事長 根本 秀嗣 視察場所：仂ファクトリー（松田町寄）	スキルアップ部門 間伐材の利活用促進事業（R7）申請額13万円 資機材の購入（R7）申請額50万円

4 出席者 5名（増田委員長、藤井副委員長、青砥委員、石本委員、小林委員）

5 概要

（1）湯河原森のなかも

（新規団体 スキルアップ部門 R7 申請額 間伐材の利活用促進事業 46.2万円/資機材の購入 24.4万円）

団体の作業場所に訪問予定であったが、雨天のため予定を変更し、作業場所付近の幕山公園にて補助事業である「間伐材の利活用促進事業」について聞き取りを行った。

【主な聴取内容】

- ・現会員数は28名。代表者移行もスムーズに行われている。新規会員も募っている。地元住民や近隣住民だけではなく、都市部在住者の会員もいる。
- ・ボランティア団体として、いずれ無くなるかもしれない「補助金」を意識して事業を展開していると感じた。また、間伐材が森林保全につながることを正しく伝えようとしていることは重要であると思う。
- ・チェーンソー取扱講習を受講し、作業保険に加入するなど、安全配慮に努めている。チルホールやロープを使用した伐倒作業、かかり木処理など、作業内容も安全に配慮したものと推察される。
- ・湯河原町町有林で活動することから、行政とは良好な繋がりを持ち、またかながわトラストみどり財団が所管する森林インストラクターの会出身者がほとんどで、県内での情報交換なども行っている。
- ・代表も副代表もサラリーマンをしながらの活動なので、活動時間を生み出すのが難しい。尾根道の作業エリアのところは、ある程度混交林になっているが、ところによってはヒサカキが原生林のように繁茂しているところもあって、なかなか手をつけらず、間伐の計画通りには進まない。

ヒノキは60年生くらい。ものによっては、胸高直径40センチくらいのものもあり、これまで使っていた35センチのチェーンソーでは切れない。

作業場所は傾斜が45度くらいある急斜面。木を倒した後の処理で、上り下りが多くて体力的に厳しい。チェーンソーやロープを持って上がるのも、自分たちで背負子を作つて使つているが、体力的に厳しいものの、作業そのものは楽しんでやっている。

【主な所感】

- ・高い意識・技術をもとに、森林整備活動を長年継続してきたことに敬意を表したい。一方で、今回新たにスキルアップ部門に取り組むことで、本来の団体活動である森林整備活動を圧迫し、縮小されることにならないか、心配である。今後の活動を見守りたい。
- 間伐材製品の販路拡大について、町、県、トラストなど関係機関と連携し、展示即売などの機会を提供するなど、補助事業以外の支援の方法も工夫できるのではないかと感じた。
- 長年使用している機械器具の更新について、補助事業で支援する仕組みがあると活動の継続を後押しできるので、より効果的であると感じた。
- ・45度の急斜面の活動で、必要な機材を人力で伐採場所まで担ぎ上げる事が大変。年齢的にもだんだん辛くなってくる。斜面での作業をサポートしてくれるトロッコの様な補助的機材があると、もっと効率よく伐採作業が進むと思う。
- ・間伐材利用の商品が出来上がっているので、もっとSNSを通じて、商品紹介のメッセージを発信したら良いと感じた。
- ・同じ目的を持った方たちなので、方向性が同じと見受けられ、会としての運営も円滑に進んでいるのではないかと感じた。仲間を増やすことの課題としては年齢的な問題がある。
- ・従事している会員が、森林の手入れを目的として間伐などの保全作業をすることを目的としているのは当然なことであるが、この団体のメンバーは対象領域内の生きもの生物多様性にも関心を持ち、調査活動も考えていることが素晴らしいと思った。
- ・新崎川上流の鍛冶屋林道の奥、辰沢沿いのエリア、4.76haの町有林で活動している。町有林の間伐を無償で実施しており、町の緑の保全にとって非常に重要な役割を担っている。
- ・今回のスキルアップ部門の新たな取組である間伐材の利活用については、試行的ではあるが会員同士がアイディアを出し合い、意欲的に取組んでいる様子である。
- 継続する森林整備については、高度な知識・技術をもとに積極的に実施しており、何より会員が楽しみながら活動している様子に好感が持てる。



▲湯河原森のなかまによる活動報告



▲補助金を活用した資機材



▲間伐材を活用して制作したミニチュアスウェーデントーチ

(2) 特定非営利活動法人 仂

(新規団体 スキルアップ部門／R7申請額 間伐材の搬出促進事業 13万円/資機材の購入 50万円)
団体活動場所を視察し、補助事業である間伐材の活用による木工品製作及び製油製造事業について聞き取りを行った。

【主な聴取内容】

- ・森林組合や林業会社から間伐材などを丸太で購入。割ってまきを作り、松田町営入浴施設に納入している。本年度から、薪加工で端材や皮を燃料として活用し、地域に自生する香りのする樹木の枝や葉を蒸留し精油を作り販売する試みを始めた。「仂」自身も、民家の裏の伸びてしまった木を切るなど、難易度の高い特殊伐採を請け負うこともある。
- ・薪販売事業や観光事業を通じて、松田町と強固な連携を図っている。地元の寄小学校への環境教育プログラムを企画するほか、精油製造開発においては、東海大学の教授や学生と連携した取組が継続している。
- 里山整備や間伐材利用に係る森林所有者との信頼関係も構築している様子。登山道整備を実施する地域内外の市民団体との交流を通じて、間伐材の提供も行っている。
- 県政総合センター主催の移住支援事業にも参画するなど、行政とのつながりも見受けられる。
- ・当初、松田町の依頼を受けて事業を行ってきた経緯からすると、目的も明確化されて実績のある団体と思える。
- ・毎週水曜日の活動は誰でも参加できるオープンな活動日で、フリー(会員外)の参加者も多い。移住者や子育て中の人たちの参加も増えている。
- ・難しい作業、専門的技術や知識を必要とする事業には、担当チームを作り、安全対策の技術の習得など学習している。
- ・地域に開かれている運営をしているところから、学校の教員の視察見学、小学校の児童の見学も受け入れている。

【主な所感】

- ・地域の里山資源を活用して地域を元気にしていくといった、代表の強い意気込みが感じられ、一つ一つ事業として軌道に乗せている姿は頼もしく感じられる。
アロマオイル精油事業は、当初は、正直、実現性について半信半疑だったが、実際の蒸留装置や商品の試作品を見ると、十分実用化が期待できるものであった。今後の取組に期待したい。
- 団体の活動は、補助金を活用しながらも、自立化を実現しており、市民団体の活動としては、先進的、模範的であり、素晴らしい取組であると感じた。
- ・常時の参加者はそれほど多くはないようだが、今後も事業展開するうえで、どのような方法で増やしていくのか。
- ・根本代表は、中山間地域の、手が付かなかった里山に手を入れること、その活動を通じて地域のコミュニティのハブとして機能していくことを活動の理念と考えており、非常に価値のある活動といえる。活動拠点として、南足柄市の企業の工場跡地を町を介して借り受け、広いスペースで薪割りや精油作りの活動を機能的に行える体制を整えている。「虫沢古道を守る会」など他団体や地域の土地所有者、行政などと幅広い関係を構築しており、松田町寄地区にとって今後、有益な活動を展開していくことが期待できると考える。

・撤退した事業所の敷地・建物を作業所や倉庫として利用でき、多角的な事業が行える利点がある。
地域との交流もこのスペースがあるからこそできると思った。



▲伊による活動場所案内



▲団体が製造した精油をもって撮影



▲間伐材を活用して
製造した精油